



いつもJA津安芸をご利用頂きありがとうございます。
JA津安芸管内の農業情報や農業を営む担い手の皆様に
少しでも役に立つ情報をお届けさせていただきます。

気温が上がってくるこれからの時期の雨には要注意！

いもち病の早期発見・早期防除を！！

東海地方の平年の梅雨入りは、6月8日頃で、梅雨明けは7月21日頃です。
今年、梅雨入りが平年に比べて4日早くなりました。
梅雨時期の降雨も秋までの水の確保には大切なことですが、
稲の病害になるいもち病の感染条件も揃いやすい時期にもなり、
6月中旬頃から7月下旬頃の梅雨明けまで注意が必要です。

情報を

取り入れて

早期発見!!



三重県病害虫防除所

●いもち病発生予想支援システム（プラスタム）では、
気象庁のアメダスのデータを利用していもち病の
発生時期を地域ごとに予測しています。

三重県病害虫防除所 プラスタム

検索

詳しくはこちらから閲覧できます。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/89860000001.htm>

平成28年	桑名	四日市	亀山	津	上野	粥見	小俣	南伊勢	鳥羽	紀伊長島	尾鷲	能野新鹿	新宮
6/01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/05	●	●	◎	◎	(5)	-	(5)	(7)	-	(6)	-	(8)	-

いもち病菌の感染好適条件

- 平均気温15℃～25℃
- 湿潤時間10時間以上
- 当日を含めて前5日間の平均気温が20℃～25℃

●葉いもち病は、降雨等によって、水稻の葉が一定時間濡れたときに、感染・発病します。
いもち病菌の感染に好適な気象条件になった日から7～10日後に葉いもち病の病斑が現れます。



【発生2～3日後の病斑】

- 葉いもち病が初発段階では、予防的に粒剤が効果的です。（コラップ粒剤など）
- 発生が目立つ場合には、治療効果の高い液剤・粉剤で防除してください。（ブラシン・ダブルカットなど）

注意！！

- ・前年にいもち病が発生した圃場には、菌の付着した籾やワラが伝染源になり発生しやすい。
- ・圃場にある補植用の置き苗も伝染源になるので、速やかに除去して下さい。

**田植え時に殺菌剤が入った箱施用剤を使用すれば、
今の時期のいもち病の心配はいりません。
田植え時からしっかりと予防することが大切です。**